

## 天天中文シリーズ講座：中国語でキャリアアップ！

「中国語でキャリアアップ！」は中国でキャリアを発展させる各界の方々に、仕事の現場や中国語学習法についてお話を伺う「天天中文」のシリーズ講座。中国の各界で活躍する皆さんに、仕事や生活のリアル体験をお伺いします！

### 第17回（2024年2月23日）ゲスト：酒井謙輔さん

アマチュア中国武術選手

父の影響で少年時代から空手、少林寺拳法などを学ぶ。やがて実戦から「型」に興味がうつり、社会人になって以降は休日を利用し、毎年、中国河南省少林寺の武術学校で学ぶ。2023年9月、台湾・高雄で開かれた台湾最大規模の中国武術大会「全國武藝群俠會國武術錦標賽」に特例で外国人選手として出場、木の棒を使う「型」の種目、「棍術」（こんじゅつ）で優勝した。

天天中文：今日は中国武術の世界チャンピオンでもある酒井さんにいらしていただき誠にありがとうございます。酒井さんには武術を始め、中国語の学習法などもいろいろお伺いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。まずは、中国武術は百以上、種類があるといいますが、酒井さんの優勝なさった武術についてまずは教えてください。

酒井：そうですね、確かに流派は数百種類あります。大きく分けて、現代武術と伝統武術、また地域ごとに北部、中部、南部、といったジャンル分けもありますね。よく知られている太極拳に関しては、中国政府の方針のもと、人々の健康のために、昔からあった楊式という流派の太極拳を改良してバランスよく筋肉がつくよう24の動作に絞って左右セットの動きにし、健康目的のために行われるのが中国でよく見られますね。それと対照的に、実戦のための動きの激しい武術を練習している人もいますし。

天天中文：やはりとても多様なんですね。酒井さんは、どうして武術にはまるようになったのですか？

酒井：私の場合、父親が空手をやってましてね。最初は父親から空手を学んでいたんですよ。それから日本武道の道場に通ってね。やっぱり武術は相手がいないと戦えず上達しないので、空手、日本少林寺拳法などの道場に通いました。少林寺拳法、というと「少林寺」という名前が付くので中国のものみたいですが、実は全然違って、れっきとした日本武道です。それで私

も大学まではバリバリの実戦派で、殴ったり蹴ったり投げたり絞めたり、をやっていました。社会人になって長野県の田舎に戻った時、練習相手がいないので、そこで路線変更。今度は「型」の世界にいてみようと思い、数日間、休みをもらって中国の河南省少林寺の武術学校に行き、それから毎年、通うようになりました。もともと「型」の美しさ、速さに魅かれていたこともありますし、当時、テレビでアクション俳優のケインコスギが中国少林寺の学校で学ぶという番組を見て、それを見て、これだったら自分もできるな、と感じたこともきっかけになりました。大学時代に実戦をやっていたので、それで下地がついていて少林寺に行っても「型」の理解は結構、速くできたと思います。

天天中文：それで中国とのつきあいも深いものになっていかれたと思いますが、中国人への印象といえば、どんなことになりますか？

酒井：まず基本的に、個々人の発するエネルギーが高くパワフルということですね。二つ目、良心的で思いやりがある人が多いです。私の会ってきた人たちは、勤勉で進取の気性があり、見ていて感化される方が多かったんです。中国の人たちとの付き合い方については、いろいろな本を読んで自分なりに研究しましたし、経験上学んだこともあります。今回、オフ会があるので、zoomで皆様にお見せするよう書いてみたんですけど……まず、一つ目、相手の面子をつぶさない。必ず相手の面子を気にかけること。

天天中文：それは必要ですよ。

酒井：二つ目、自分も結構苦い思いをしてきたんですが、依頼案件がある時は、それが達成されるまで絶対に経過確認を怠らないこと。何か相手への依頼とか、あるいは公的な申請とか仕事でも、それが達成できるまでは、途中経過への注意、確認や交渉を絶対に怠ってはいけません。

そして、3つ目、日本人としての良い性質を押し出しながら接する。例えばゴミが出たら、率先してゴミを処理するとか、相手方への礼儀は忘れないなど。そして最後に接し方の研究をする。数年前、書店で勧められて買った「很好说话」という本が良かったです。私の実践してきたことと同じような内容もありまして、みなさんにも一読をお勧めです。

そして、中国人に学んだことといえば、やはり物事への取り組み方への熱意で、これは感銘を受けました。何かを成し遂げようと思ったら必ず必要で、これは中国人の友人からカンフル剤を打たれるように影響を受けています。

天天中文：そうですね、そういう人多いですよね、本当に。

酒井：何か戦うにしても、自分を全開にして戦う、この姿勢ももらいました。あと考え方の柔軟性でしょうか。そういうのは、武術で知り合った友人だけでなく、「人人網」という中国版フェイスブックみたいのがあるのですが、それで知り合った友達からも影響を受けています。みんな年下なんですけど、こちらの魂が揺さぶられるようなことを言ってくれます。中国だと例えば公園でも、みな武術とかダンスの練習を一生懸命やっていますよね。でも日本だと結構まわりの見目を気にしすぎてしまって、自分の家の庭であっても練習できないことが多く、日本人特有だと感じます。多分、中国だと、近所からどう見られようが構わず練習するという感じだと思います。

天天中文：中国語の学習についても、酒井さん独特の方法をぜひ教えてください。

酒井：実は中国語は中高生の時から関心がありました。大学ではちょっと熱意が落ちたのですが第二外国語で文法を学べたのは良かったですね。それで社会人になって初めて北京に行くと、中国熱が再燃して独学が始まりました。一番役立ったのは、シャドーイングと、中国人との SNS、wechat のやりとりですね。wechat でやりとりすると、「中国人はこういう時、こういう風を書くんだよ」と教えてくれるし、シャドーイングでは書籍「通訳メソッドを応用した中国語短文会話 800」が初めの練習としては最適で、爆発的に力がついたように思います。会話がいまいちと思っている方に一歩抜け出すために、ぜひ。ヒアリングでは、「云听」というサイトがあってこれはインターネットで中国のラジオ放送が聴けます。このなかで「中国交通广播」が交通情報だけでなく、お笑いや街のいろいろなニュースがあって聴きやすいです。また定期的に自分の力をはかる、ということでは年 2 回実施される BCT (Business Chinese Test) 受験もお勧めです。なぜか同じ主催者が開催する HSK のほうが広く知られていますが、BCT は質の良い問題が出ると感じています。辞書では中日オンライン辞書アプリの「北辞郎」。新語がスピーディに収録されていて、よく参考にしています。

\*\*\*\*\*

続いて参加者のみなさんからの質疑応答に入り、中国武術や中国語を巡るお話が続きました。

(文責・天天中文)

